

昭51-30378

特 許 公 報

④ 公告 昭和51年(1976)8月31日

庁内整理番号 6541-26

発明の数 1

(全 2 頁)

1

⑨ 除雪機

① 特 願 昭48-39905

② 出 願 昭48(1973)4月4日

公 開 昭49-126136

③ 昭49(1974)12月3日

④ 発 明 者 出願人に同じ

⑤ 出 願 人 藤井恒雄

燕市大字小池285

⑥ 代 理 人 弁理士 吉井昭栄

⑩ 特許請求の範囲

1 履帯を装着した左右の装軌フレームの後部寄りに支点軸を架設し、前方に除雪部を附設し中間上方にエンジンを載置した腕機枠の後部に支点パイプを設け、この支点パイプに前記支点軸を嵌挿して腕機枠を支点軸を支点とし先端が上下する様に揺動自在に設け、前記左右の装軌フレームの前部寄りに支持杆の中間部にジャッキの下端を枢着し、このジャッキの上端を腕機枠のエンジン載置板の下面に枢着し、ジャッキの操作杆を機体操縦

発明の詳細な説明

本発明は除雪の深さを簡単に調節し得る便利な除雪機に係るものにして、添附図面を参照にその構成を詳述すると次の通りである。

履帯1は装軌フレーム2に附設されたガイド輪3群に装着されている。

この左右の装軌フレーム2の後部寄りには支点軸4を架設し、前部寄りには支持杆16を架設する。左右の装軌部aの間には本体bが配置されるが、この本体bは腕機枠5と除雪部6とから成立つていて、腕機枠5の中間上方にはエンジン載置板7を附設し、このエンジン載置板7上にエンジン8を附設する。

2

このエンジン8により腕機枠5の前方に附設された除雪部6のオーガ9を高速回転せしめ、排雪筒10より雪を吹き飛ばしている。

この腕機枠5の後部に支点パイプ11を固着し、5 この支点パイプ11を支点軸4に嵌挿し、腕機枠5を支点軸4を支点として先端を揺動自在に設ける。前記支持杆16の中間にジャッキ12の下端を枢着し、ジャッキ12の上端をエンジン載置板7の下面に枢着する。

10 ジャッキ12に突設したジャッキ操作杆13を機体操縦ハンドル下部まで延長突設し、操縦板14に廻動自在に保持せしめ、廻動ハンドル15を附設する。尚図中17は機体操縦部、18はブロー、19は除雪ケースである。

本発明は上述の様に構成したから廻動ハンドル15を廻動せしめるとジャッキ操作杆13が廻動し、ジャッキ頭部が突出したり、没入したりする。

このジャッキ12は支持杆16と腕機枠5との間に介在せしめられているから腕機枠5は支点軸4を支点として簡単に上下揺動する事になる。

この腕機枠5の前側に除雪部6が附設されているから除雪部6全体が容易に上下する事になる。

従つて除雪の深さを自由に調節し得る便利な除雪機となる。

亦移動走行の際には除雪部を高めに上げてやれば地面上の障害物にぶつかつてオーガ9を痛める事もない等幾多の秀れた実用上の効果を有する除雪機になる。

図面の簡単な説明

図は本機の一部を切欠した側面図である。

1……履帯、2……装軌フレーム、4……支点軸、6……除雪部、8……エンジン、5……腕機枠、11……支点パイプ、16……支持杆、12……ジャッキ、7……エンジン載置板、13……ジャッキ操作杆。

